

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立兼六小学校

①児童アンケート

(1)英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (％)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	25.0	39.0	20.0	16.0	0
問2	英語科の勉強は大切だ。	68.0	27.0	5.0	0.0	0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	44.0	42.0	12.0	2.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	32.0	44.0	17.0	7.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	31.0	49.0	14.0	6.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	85.0	8.0	5.0	2.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	86.0	10.0	2.0	2.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	47.0	34.0	14.0	5.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	41.0	29.0	25.0	5.0	0.0

(2)デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	45.6	29.6	20.3	2.3	2.3
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	47.6	27.0	18.6	3.9	2.8
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	48.2	27.6	17.5	4.8	2.0

②指導改善の具体策

【英語科】 ・英語で「話したい・聞きたい」という主体的・対話的な欲求を刺激するため、児童の身近な関心事をテーマにした対話活動を取り入れる。 ・児童がさらに自信を持てるよう、毎時間の終わりに「今日読めた単語」「友達に質問できた回数」をふりかえる機会を設ける。 ・まずはキーワード1語、次に短いフレーズといったスモールステップでのライティング活動を取り入れた授業構成をする。 【デジタル科】 ・委員会活動の連絡、クラブ活動のアンケート、係活動のポスター制作など、授業外の学校生活でも児童が自発的にICTを活用できる場面を設定する。

③学校関係者評価

・地域の特性を生かし、児童が英語を話すことに自信が持てるように、外国の方との交流の機会を増やすとよい。 ・ICTを活用する力は、児童にとってなくてはならない力である。その特性を小さいうちから学び、自分やみんなのことを考えてICTを使得るようになって欲しい。
